

特集

再生医療関連企業による 「沖縄力発見ツアー2015」

～沖縄への投資促進や新たな産業の創出・振興を目指して～

松本内閣府大臣政務官(当時)

内閣府では、9月10日から9月11日にかけて、県外の再生医療関連企業の代表者等の方々に沖縄の豊かな地域資源や優れたビジネス環境等を実感していただく、「沖縄力発見ツアー2015」を実施しました。

今回のツアーでは県外企業等20社が参加し、10日にオリエンテーション、豊見城中央病院への視察、ワーキング・ディナー、11日に、琉球大学医学部や沖縄ライフサイエンス研究センター、沖縄バイオ産業振興センター、沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センター、沖縄科学技術大学院大学、那覇空港貨物ターミナルビルの視察を行うとともに、県内の再生医療関連企業等との意見交換等を行いました。

★ワーキング・ディナー

ジアのゲートウェイとして発展する沖縄」と題して、沖縄県の概況説明を行いました。

県外から参加された企業の方々と、松本内閣府大臣政務官(当時)、沖縄県幹部、県内経済界関係者等の方々が一堂に会し、ワーキング・ディナーを実施しました。

ディナーの冒頭、松本政務官から、「沖縄は、急成長するアジア市場への拠点として圧倒的に有利な“地の利”や新たなビジネスのシーズを育てる“知の基盤”が急速に形成されている。このツアーを機に、沖縄の魅力やポテンシャルを実感していたとき、今後の事業連携や沖縄進出を検討していただきたい」と挨拶がありました。また、久保田沖縄総合事務局長からは、「ア



久保田局長によるプレゼン風景

★豊見城中央病院、琉球大学医学部及び県内企業との意見交換



ワーキング・ディナーにおける意見交換

豊見城中央病院では、東京女子医科大学と提携して取り組む細胞シートプロジェクトの紹介等をしていただきました。同病院では、今後、細胞シート技術を用いた臨床研究の開始に向けて、設備の導入や研究体制の整備を行っていく予定であり、参加企業から多くのご関心やご意見が寄せられました。

また、琉球大学では、同医学部から再生医療・細胞治療の参

各参加者は、県内企業、大学・研究機関や業界団体との情報交換を行い、相互の交流を深めました。



豊見城中央病院との意見交換

床実施を目指した研究についてご説明いただくとともに、今年6月に開設した「再生医療研究センター」の視察を行い、最新の設備や機器類の紹介をしていただきました。

さらに、沖縄健康バイオテクノロジー研究開発センターにおいては、県内の再生医療関連企業から沖縄進出のメリットや課題等についてプレゼンをしていただき、ツアーパートナーとの活発な意見交換を行いました。

県内企業からは賃料の安さや共有機器の豊富さ、県の手厚い支援などがメリットとして挙げられました。



琉球大学医学部との意見交換



沖縄ライフサイエンス研究センター視察



沖縄科学技術大学院大学キャンパスツアー



那覇空港貨物ターミナルビル(ANA) 視察

られる一方、空港からの距離感等が課題として挙げられるなど、リアリティのある内容に参加者は耳を傾けました。

沖縄科学技術大学院大学キャンパスツアーにおいては、同大学の概要説明や学連携の取組紹介のほか、研究施設等を見学するキャンパスツアーパートナーを行いました。

● 賃金や家賃の安さなど沖縄の持つ潜在的な可能性は大きいと思われるが、本州からの航空運賃が高く、その対策も考えられる。

内閣府では、今回の沖縄力発見ツアーパートナーで頂いた様々な方々のアドバイス、ご指摘を今後の取り組みに活かしていきたいと考えています。

● 沖縄での最先端の医学研究について、医療ツーリズムという観点からも対外的にもつとアピールしてもいいのではないか。

● アジアへの展開、製品製造・輸送を考えると、沖縄への進出は今後検討に値すると思われる。

● 沖縄での最先端の医学研究について、医療ツーリズムという観点からも対外的にもつとアピールしてもいいのではないか。

● ツアーパートナーからは、共同開発の可能性を今後検討してみたい。

● 沖縄貨物ハブに関する概要説明のほか、貨物上屋内の視察を行なうなど、沖縄の物流拠点としての可能性を実感していただきました。

★ツアーパートナーからの声



沖縄科学技術大学院大学においては、同大学の概要説明や学連携の取組紹介のほか、研究施設等を見学するキャンパスツアーパートナーを行いました。

また、那覇空港貨物ターミナルビル(ANA)においては、沖縄貨物ハブに関する概要説明のほか、貨物上屋内の視察を行なうなど、沖縄の物流拠点としての可能性を実感していただきました。